

富山の最新ニュース

webun

北日本新聞

滑川市早月加積地区 2014年5月15日

エドヒガン守ろう 滑川・早月加積地区、樹 勢衰え土壤改良



滑川市早月加積地区の貴重なサクラを守るため、市が一带で土壤改良などの整備を進めている。市内に2本しかないエドヒガンの1本で、樹齢は100年以上という。近年、樹勢が衰え、花の数も少なくなっていた。住民は早い回復を

祈り、「保存の取り組みに一層力を入れ、後世に残したい」と話している。

エドヒガンは長寿のサクラで「千年桜」とも呼ばれ、同市追分の早月加積幼稚園グラウンド脇にある。旧早月加積小学校跡地で、1967年に校舎が焼けた火災もくぐり抜けた。住民は草刈りなど手入れを続け、春に満開の花を眺めるのを楽しみにしてきた。

ところが、4年ほど前から衰弱が目立つようになった。大きな枝が枯死して落ちるなどし、花の数が減少。市が昨年調べたところ、木の前にある同地区公民館駐車場のアスファルト舗装が原因とみられることが分かった。

舗装されたのは8年前。サクラは地表近くに根を張る傾向があるが、周りの地面がアスファルトで覆われたため、酸素や水分を吸収できなくなっていたとみられる。

市は今月から一帯で工事を開始。木に近い6台分のアスファルトをはがし、造園業者が腐葉土を敷くなど土壌の改良を進めている。看板も立てて、駐車を控えてもらう。

地元の元生物教諭で、同幼稚園の理事長も務めた山本勝博さん（74）は「心配だったが、数年後には活性化するのではないか」と期待する。一帯にはソメイヨシノも数多くあり、梅次直樹同地区自治会連合会長（64）は「地域のシンボルを守り、サクラの名所にしたい」と話している。